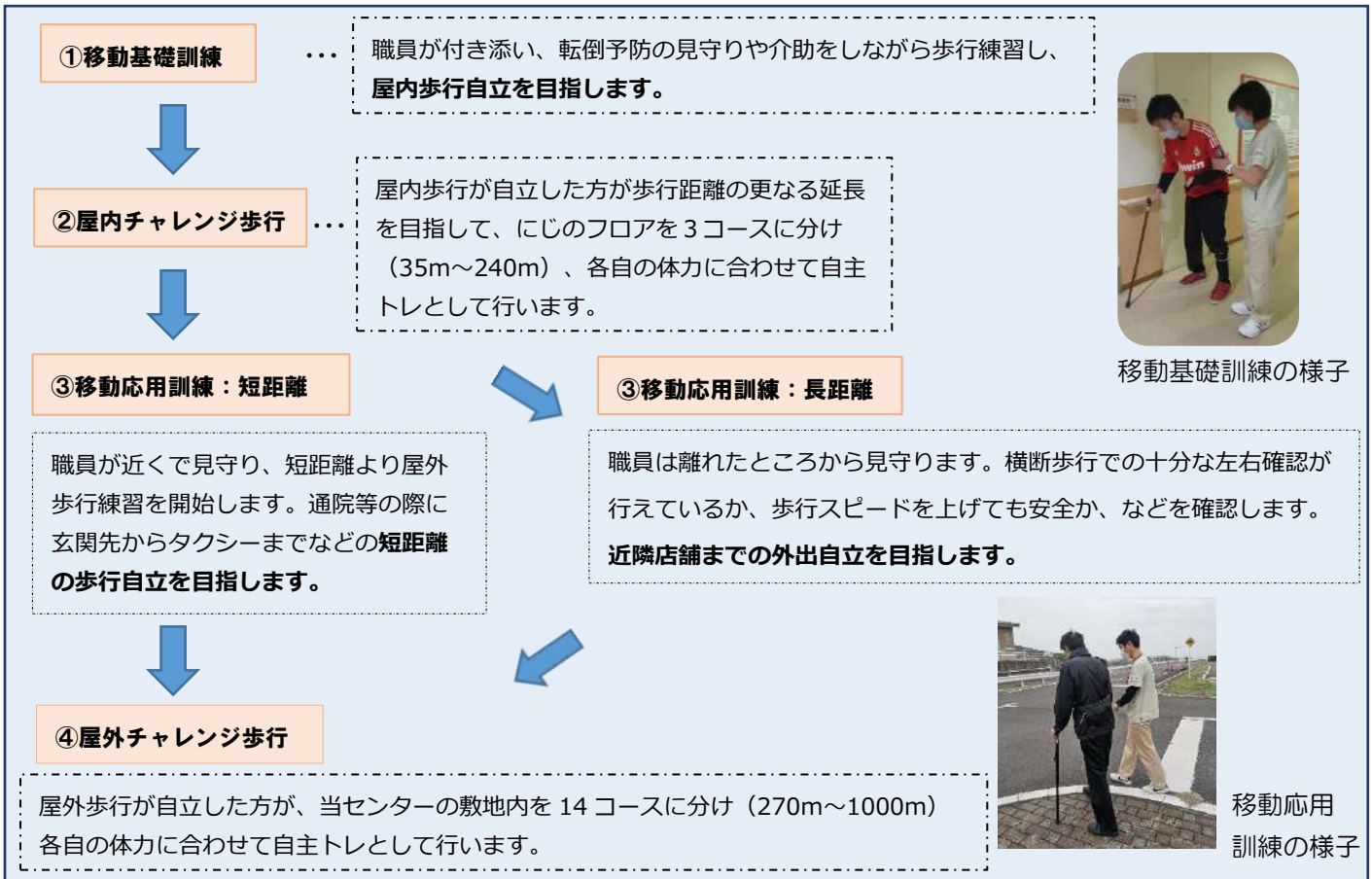


移動範囲の拡大に向けて

にじでは社会参加に大切な課題の一つである、移動範囲の拡大に向けたプログラムを段階的に実施しています。今回は移動方法のひとつである歩行練習のプログラムについてご紹介します。



歩行練習は歩行自立を目指すだけでなく、有酸素運動であり脳の活性化に有効です。また立つ事は体幹筋の強化にもなり姿勢矯正にも役立ちます。にじでは、自主トレで手すり歩行にコツコツ取り組んでいらっしゃる方も多くいます。これからも職員一同コツコツ頑張る方々を全力でサポートしていきます！



「にじ」保健室の活動 ~ホワイトボードの活用~

「にじ」の保健室では年に2回、利用者様全員に対して健康教室を行っており、今年からの取り組みとして保健室前に毎月、感染症予防対策や健康管理についてのお知らせを行うようにしました。

文章のみでなく季節を感じられるイラストを入れるなど工夫し視覚的にも楽しんでいただいています。また利用者様が立ち止まって興味を持って貰えるような内容を試行錯誤しながら行っています。

この取り組みを行い始めてから利用者様から「次は何か?」「参考にしています」と楽しみにされて声をかけてくださり、コミュニケーションの一環にもなっています。

これからも利用者様がご自身で体調管理を行い社会復帰ができるよう指導方法を工夫しながら支援していきたく思います。



イラストつきで見やすく、みなさん足を止めてくださいます。



就労移行支援 OB のお話



～オムロン太陽～



前号に引き続き、オムロン太陽株式会社に就職した方のインタビューをお届けしたいと思います。

関東で建築関係のお仕事をされていた 20 代 B さん。今から 3 年前にスノーボードの着地に失敗し受傷。ドクターヘリで緊急搬送され手術を受けました。車椅子の生活となりリハビリが始まり、懸命に取り組みました。「目の前の事をやるしかないと思っていた」と B さんは当手を振り返ります。温厚な人柄の B さんの強さが垣間見える瞬間でした。受傷前と同じ仕事内容は難しくても元の職場に戻りたい気持ちは強く、その思いを原動力にリハビリに取り組みました。

その後地元に戻り、入院しながらリハビリを継続しました。この頃から「元の職場でなくてもできる仕事をしたい」と思うようになったと言います。その後ソーシャルワーカーの紹介で当施設を知り、訓練を通して仕事につなげていきたい・自動車運転の再開をしたいと考え、見学の後に利用開始となりました。

初めはこれまでの病院でのマンツーマンのリハビリとは違い、社会生活を見据えた当施設の集団訓練に戸惑いを覚えることもあったようですが、すぐに慣れ訓練に励まれました。

また、同じような障害を持つ利用者の方と触れ合っていく中で、車椅子での公共交通機関の利用の仕方なども覚えていきました。加えて「車椅子でどんな仕事ができるのかとみんながよく話していた」と教えてくれました。仕事は入所後に退職の決断をし、新たなお仕事を探していくこととなりました。

「地元か大分か…」そう迷っていた時に、同じく車椅子の利用者がオムロン太陽株式会社へ見学に行った話を聞き興味をもち、説明会への参加を決めました。その後実習を経て、面接・試験を乗り越え入社となりました。

就労・単身生活が同時に始まり慣れるまでは大変だったと思いますが、現在は両立されて頑張っています。職場環境も車椅子の方でも働きやすいように工夫がされており、「上司にも相談しやすく助かっている」と話してくれました。

「目の前の事に真剣に取り組むことが次につながると思います」
インタビューの最後にも B さんらしい前向きな言葉を聞くことができました。



朗らかな笑顔の B さん。
仕事になると真剣な目つき
で取り組まれていました。



社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

障害者支援施設 にじ (機能訓練・生活訓練・就労移行支援・施設入所支援)

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10 TEL:0977-67-1716 ホームページ : <https://brc.or.jp/>

